

風の谷 びゅう VIEW

社会福祉法人 風の谷
相模原市中央区田名7236-3
発行責任者 政野 光廣
042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp

やまびこ工房地域交流まつり



たくさんのご協力とご来場 ありがとうございました



【2019年 夏号】		
◇巻頭文	P 2	◇「それぞれ」～自閉症支援センターより～ P 3
◇特集「やまびこ工房地域交流まつり」	P 4・5	◇活動報告「マドレーヌ作り」 P 6
◇グループホーム便り	P 7	◇後援会のページ P 8

原点に立ち返って

1998年7月に自閉症の支援に特化した通所施設として、やまびこ工房を開所した当時の自閉症の方たちをめぐる状況と、現在の状況とでは大きく様変わりしてきているように感じています。

開所以来取り組みを進めてきた、行動障害の強い知的重度の自閉症の方たちの地域生活を支えていくのは、自閉症支援の一丁目一番地としてこれからも取り組み続けていくべき大切なテーマであると思います。それと同時に、我々支援者が忘れてならないのは、新たなニーズへの対応を常に心して取り組む姿勢を持つことです。

やまびこ工房開所当時はまだ措置制度の時代で、「入所か？通所か？」の議論にグループホームが加わり始めたような、利用者にとっては選択肢が極めて乏しい時代でした。その後、利用契約制度の時代を迎え、支援費制度、自立支援法、総合支援法へと進む中で、サービスメニューが増えるとともに事業所も増え、利用者側の選択肢も多様な広がりを見せるようになってきました。もはや、自閉症だから自閉症に特化した専門施設への雰囲気ではなくなっており、安定した落ち着きのある日常を求めるといった支援内容にとどまらず、積極的な社会参加を実現できるような支援も求められてきています。

こうした状況の背景としては、日本自閉症協会をはじめとした関係者の努力により自閉症理解が全国的に進展したことと併せて、神奈川県では20年以上にわたり自閉症親の会が『トレーニングセミナー』を開催し自閉症に係る支援者を養成し続けてくれたことで、関わりの難しい自閉症の人たちの受け入れが他の事業所でも着実に進んできたことがあげられます。また、ここ最近では、強度行動障害支援者養成研修を受講した職員を配置した事業所に加算される仕組みとなったことから、行動障害を伴う自閉重度の方の一般事業所での受け入れが一層進む結果となっています。つまり、当法人の事業が自閉症支援に特化しているというだけでは今後の事業の進展が望めない、そのような状況に直面していると言っているかもしれません。

こうした状況を打破するためには、今一度原点に立ち返って、私たちの支援を求めてくださる利用者・家族一人一人にしっかりと向き合い、そのニーズをしっかりと受け止めてもらえたと実感していただけるような対応を徹底して心がけていくことが肝要かと思います。私たちの支援を求めて出会ったにもかかわらず、受け止めてもらえたとの実感が持てず失望して去っていく人が出ることの無いよう、今一度気を引き締め、多様なニーズに対応できる支援体制の構築に努めたいと思います。

また、当法人設立の原点である相模原自閉症児者親の会の協力も得て、自閉症スペクトラムの人たちに求められるニーズ等について意見交換させていただく場を設けるなど、これまでの事業の流れにとらわれず今後の事業展開を検討していきたいと思います。

今後ともさらなるご支援ご協力をお願いいたします。

常務理事 中島博幸

そ れ ぞ れ

～相模原自閉症支援センターより～

平成から令和になりました。法人設立後、初めての改元であり、自閉症者はこの変化をどう受け止めるのかと思ひながら迎えたが、ある方は、夜更かししたとか、ある方は、古い物を片付けようという意識が強まったとか、新年を迎えるときと同じような心境だったのかなあと今のところ受け止めております。

7月26日で津久井やまゆり園の事件から3年になります。この事件の意味は、常に考え続けていることではありますが、一步考えを進めると、社会の中で自閉症者の居場所をどのように作っていくかということが浮かんできます。これは、支援者側の考えです。自閉症者自身は居場所を見つけているのに社会がそれを別の場所へと誘導しているのかもしれませんが。あるいは、排除しようとしているのかもしれませんが。ただ私達支援者ができることは社会と自閉症者との架け橋になるということです。以前であれば、自閉症者を支援するものとして、自閉症者本意の立場を目指して支援していました。今は、社会も意識した架け橋となることを念頭においています。

昨年から宮ヶ瀬湖にある『水とエネルギー館』の館内にあるレイクサイドカフェにて清掃をさせて頂いております。きっかけは相模原やまびこ会の方からのご紹介で、清掃の他、カレー作りの手伝いを行ってみてはどうかというものでしたが、今のところ清掃のみです。床や窓、時に蜘蛛の巣取りもして、素敵な空間の維持に貢献できるように取り組んでおります。清掃活動が軌道に乗った時、お店の方から工賃のお話を頂きました。以前であれば、有難く頂いたかもしれませんが。ただ、今は工賃よりもこのような活躍の場を頂けていることと、工賃を頂くと仕事の質も求められてきます。そうすると掃除に不慣れな利用者の体験の場が失われてしまい、次に繋がらないように思われました。そこで、より自閉症者を理解して頂くために、やまびこ工房のマフラーや帽子、ポーチなどの自主製作品を置かせて頂けないかとお願ひしたところ、心よくお受け頂きました。お客様も多い中、時に販売のお手数を掛けてしまうのですが、好きにレイアウトできる販売スペースを頂けたのです。売れることも大事なのですが、それ以上にレイクサイドカフェに訪れたお客様がやまびこ工房の自主製作品を手に取り、見てくださるだけでも十分だと思います。それが自閉症を理解するきっかけになるかもしれないのですから。

さらに宮ヶ瀬水の郷商店街“絆”にはレイクサイドカフェの姉妹店があり、“絆”の中庭の清掃もさせて頂いております。落葉の季節は、拾っても拾っても落ち葉が尽きませんが、おしゃれな中庭の清掃は、支援者としても楽しい時間です。春にはさくら祭りが商店街で催され、出店のお話を頂き、利用者が刺繍したポーチ他、マドレーヌを販売しました。お店の方の御好意で人通りの多い場所を頂き、マドレーヌは完売することが出来ました。販売を手伝ってくれた利用者や御家族と一緒に来てくれた利用者もおられ、特別な一日になりました。このように清掃や販売出店することにより、自閉症の方とその御家族が楽しみにして訪れやすい場所となっていくことも目標です。また6月（発行時には終了しておりますが）から11月には第4日曜日は、宮ヶ瀬水の郷商店街“絆”中庭にて、マルシェが開催される予定になっており、やまびこ工房も出店する予定になっております。他に出店される事業所とも協力して、宮ヶ瀬に訪れる楽しみを作っていけたらと思います。（薬師丸）

第20回 やまびこ工房 地域交流まつり



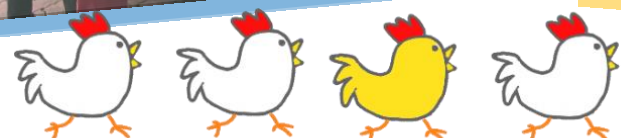
この恒例行事も皆さまに支えられながら今年で20回という節目を迎えることができました。今後地域の皆さまとの交流をより大切にしていきたいという思いから、この行事の名称を『地域交流バザー』から『地域交流まつり』へと変更いたしました。このおまつりを通して、風の谷関係者と地域で暮らしている皆さまが、お互いの顔を知り、交流を深めていけたらと思います。

さて、20回という節目を迎え地域交流まつりとして新たな一歩を踏み出した本行事ですが、今年度も風の谷後援会主催のもと、家族会、キュービック相模原、ドウ・シルフィード、ボランティアスタッフ等のご協力により無事に開催することができ、大勢の方にご来場いただきました。地域交流まつりとしての第一歩目は快晴…とまではいきませんでした。暑過ぎず寒過ぎず、おまつりとしてはとても良い気候になりました。

今回の目玉は、なんといってもやまびこ工房オリジナルのマドレーヌです。このマドレーヌはやまびこ工房の利用者と職員の共同作業で1から作っています。時間をかけて丁寧に仕上げているので、職員からも大人気です。当日ご来場くださったお客様にもご好評いただき、完売することができました。



フレーン・紅茶・抹茶の
3種類つくりました!



活動報告 “マドレーヌ作り”



やまびこ工房の新しい活動の一つとして、今年度より利用者さんと一緒にマドレーヌ作りに取り組んでいます。活動開始当初は、いきなりお菓子作りは難しいのでは…とと思っていましたが、始めてみるとみなさん手際よく進めてくださりました。今回は、その様子をご紹介します。



溶いた卵と粉を合わせます。
ダマが残らないようにしっかりと混ぜ合わせるのは意外と大変です。泡だて器をしっかり握り、力強く混ぜます。



卵をボールに割入れます。
殻が入らないように慎重に…。卵は、ボールのふちで割る派と調理台で割る派にわかれていました。



生地を型に流し込む工程です。これがなかなか難しいのですが、「**ちゃつきり**」という器具を使うと、みなさんスムーズに行っていました！



十分に冷ましたら、ひとつずつ袋に詰め、シーラーで圧着後、ラベルを貼って仕上げます。みなさんテンポよく進めてくださいました。

焼きあがったマドレーヌを型から外します。熱いので軍手をつけて行います。



オリジナルのラベルシールです。
袋にシールを貼る工程も利用者さんに行っています。



普段は、感覚に過敏さがありマスクや帽子を身に着けることに抵抗がある方も、マドレーヌ作りとなると自ら白衣に袖を通し、帽子も被ることができていました。準備万端なその姿に、職員一同驚きました。

このように、普段の活動では見られない新たな一面を発見することができ、また、利用者さんも笑顔で「楽しかった!」と喜んでくださいました。今後も定期的 to 実施し、より多くの方が携われるようにしたいと思います。新たなお菓子も検討中! ご期待ください!

宮ヶ瀬水の郷商店街“絆”中庭で開催のマルシェにてマドレーヌを販売予定です。(毎月第4日曜日)ぜひ足をお運びください!



カラフル便り



カラフルを利用者されている方はやまびこ工房に通所されている方と第二やまびこ工房に通所されている方がいます。ですが第二やまびこ工房が出来る前は皆さんやまびこ工房に通所されていました。中には同じ作業室で活動していた方たちもいます。今回はカラフルが出来たことで久しぶりに再開したIさんとSさんのお話をしたいと思います。

お二人はやまびこ工房に通所される前からのお知り合いでしたが、Iさんは第二やまびこ工房が出来てすぐに移動されたのでお二人がカラフルで出会うまで約4年の月日が流れていました。久しぶりの再会であってもお互いの関係は色あせた様子はありません。

SさんはIさんから1ヶ月遅れてのカラフル利用でした。きっとグループホームでの新しい生活には色々と不安があったと思います。そんな中、初めて入ったカラフルのリビングでIさんを見つけると、久しぶりの再会に喜びを隠さずIさんを指差して満面の笑顔。かたやIさんはそんなSさんを見てもぶれることなくマイペース。その姿はまるでなにも心配することはないぞ！と雄弁に語っているように見えました。

カラフルの生活も3ヵ月経ち、生活パターンが出来つつあるSさんはリビングのソファが大のお気に入りになりました。いつものようにドリンクを飲みながらソファでゆっくりしているとIさんもお風呂を終えて隣の椅子に座りコーヒブレイク、その時のお二人からは何もせずとも流れる温かい空気を感じて、側にいる私もなんだかほんわかとした気持ちになります。

カラフルが開所されてまだ1年も経っていませんが、ご家庭でもやまびこ工房・第二やまびこ工房にもない10名の利用者さんが作るカラフルならではの生活が確かにあります。これからも様々な出来事があり、皆さんの生活が色づいて行くと思いますがその生活に触れながらより良いものにしていききたいと思います。(田辺)

ナウシカ便り



グループホームに限らず、風の谷のサービスは利用者さんの地域での暮らしを支えることを目的としています。それは職員の方だけではなく、近隣地域の方のご理解、ご協力がなくてはならないものです。

ナウシカでは買い物へ行かれる方が何人かいらっしゃいますが、地域のお店の方にはとても気持ちの良い対応をいただいています。その中でもよく利用しているファミリーマートでは長年通い続けている方がいらっしゃることもあり、付添いの職員が驚くほど理解のある対応をして下さり、皆さんとても安心された様子で買い物できています。

例えば、お釣りの小銭に関して、1つだけ色が違って見えるものがあると交換を求める方がいらっしゃいます。その方には手の平に数枚を広げて見せるようにしてご本人が納得いくように配慮して下さったり、釣銭をいただけたり、レジ袋の取っ手の部分の皺が気になる方には広げて形を整えて渡していただきたり、といったことが挙げられます。先日、特に職員の間で話題になったことがありました。小銭の交換や袋の皺を気にされることが多い日があり、付添いをしていた私も思わず「もういいんじゃないですか」と声をかけていました。そこで対応中だったレジの方が「もう月末ですもんね」と一言。

その方はカレンダーも強く気にされる方で特に月替わりのタミングで先の予定を気にされ、様々な繰り返し行動が増える傾向があります。一度そういった説明はさせて頂いていましたが、それが理解され、店員さんにとっても想定内の出来事として受け入れられていることはナウシカの皆さんの暮らしやすさを象徴している出来事だと思いました。

こういった暮らしの中で、私たちも地域に貢献する方法を考えたいと思います。(野田)

後援会のページ

後援会の皆様には日頃より社会福祉法人「風の谷」をご支援いただき誠に有り難うございます。

毎年6月の第一日曜日に開催して参りました地域交流バザーについて内容を若干見直すと共に、名称を「やまびこ工房地域交流まつり」に変更いたしました。以前から本バザーは地域の皆様との「交流」を主な目的として開催して参りました。地域の方にも工房を直に見ていただき、触れ合いの場を持つことはとても大切で、それは良き隣人としての関係を一層深めることに繋がって行くと思っております。ですが収益を目的とするバザーという名称では本行事の目的から見て不適切ではないかとの意見もあり、名称の点でも本行事を地域の皆様との交流の一環として位置付けることを明確にしたつもりです。

本年は6月2日に開催し、大勢の方に来場いただきました。ご協力いただいた地域の方々、家族会や工房職員の方々に深く御礼申し上げます。今回の最も嬉しいトピックスは子供達が初めて何百個ものマドレーヌ（焼き菓子）を作り、販売できたことです。最初上手にできるか危惧しましたが、とても味も良く大変好評で完売できました。

これから蒸し暑い季節に入ります。くれぐれも体調管理にご留意の上お過ごし下さい。

(堀田)

平成30年12月1日～平成31年4月30日現在（五十音順敬称略）

【新規個人】

(相模原市) 小野沢進

【更新個人】

(相模原市) 安藤美由紀 石崎守 井田圭子 井上響子 岩根徹 大庭順子 小川ひろみ 日下部喜美子
工藤真弓 小針徳枝 斎藤真澄 渋谷安恵 島森隆夫 菅照雄 鈴木秀美 高橋ユキ江 田中三郎
津田秀隆 都築尚一 豊田幸男 中村成美 野口和代 芳賀道子 古澤倫子 辺見祐二 堀田脩司
政野大 政野光廣 松原麻子 村田薫 百田紀久男

(厚木市) 新井靖数 樋口里美 山井京子 (座間市) 大澤宏二 上城洋一 (横須賀市) 浅羽昭子

(横浜市) 青山恵子 石渡和実 鷺谷廣道 内藤美也子 (町田市) 山本昭子 (大田区) 堀田昌弘

(愛甲郡) 高橋美代子 (北海道) 日下部信正 (盛岡市) 宮手敏雄 (上田市) 合津紀子

(堺市) 守屋恵美子

【ご寄付・ご協力】

安藤美由紀 木下謙三 中塚正彦 萩原春夫 藤野孝夫 宮田勇 新宿自治会 新宿小学校

ドウ・シルフィード 田名地区社協ボランティアセンター (有) 伸和トラスト

ワーカーズキュービック相模原

その他たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

『風の谷後援会』事務局

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内

TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345